

# 富秋中学校区における 学校・教育環境について

2018. 5. 22

1

## 1. 富秋中学校区の 各小中学校について

2

## 学校の敷地規模、延床面積

学校名	敷地規模	延床面積
幸小	20,375m <sup>2</sup>	10,225m <sup>2</sup>
池上小	17,958m <sup>2</sup>	5,410m <sup>2</sup>
富秋中	41,511m <sup>2</sup>	12,252m <sup>2</sup>

3

## 児童・生徒数、クラス数の推移

幸小学校

1学年平均児童数と全クラス数



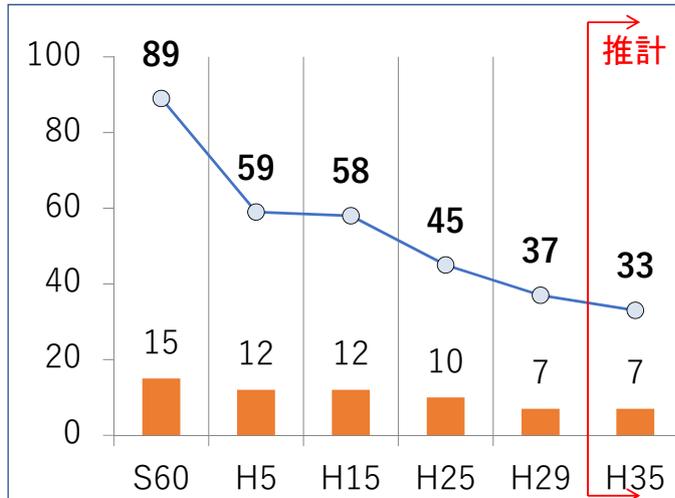
児童数は平成15年をピークに4割程度に減少。  
平成30年の学級数は各学年1クラスであり、今後も1学年20人前後で推移する見込み

4

## 児童・生徒数、クラス数の推移

池上小学校

1学年平均児童数と全クラス数



H30	児童数	クラス数
1年生	40	2
2年生	32	1
3年生	30	1
4年生	38	1
5年生	36	1
6年生	26	1
計	202	7

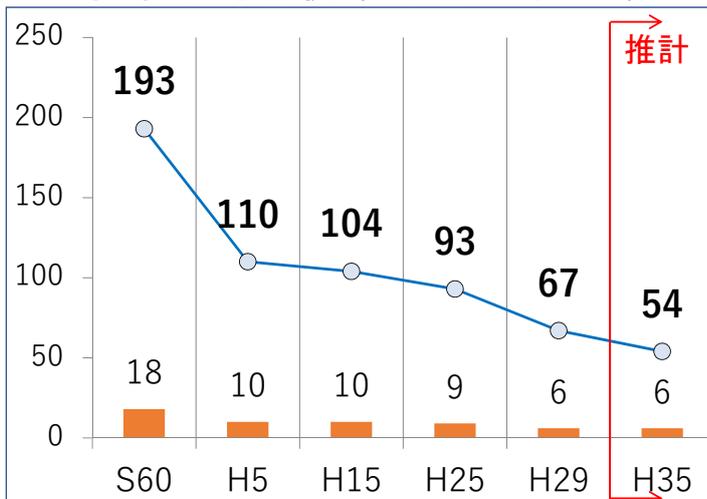
児童数は昭和60年をピークに4割程度に減少。  
学級数は、今後ほぼ全ての学年で1クラスとなる見込み。

5

## 児童・生徒数、クラス数の推移

富秋中学校

1学年平均生徒数と全クラス数



H30	生徒数	クラス数
1年生	70	2
2年生	58	2
3年生	71	2
計	199	6

生徒数は昭和60年をピークに1/3程度に減少。  
平成30年の学級数は各学年2クラスであり、今後1学年60人を下回る見込み

6

## 2. 国の方向性

7

### 国が定める標準学級

学校教育法施行規則

「学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。」

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担に関する法律施行令

適正な規模の条件は次の号に掲げるものとする。  
「学級数がおおむね12 学級から18 学級までであること。」

8

## 「公立小中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」 平成27年1月 文部科学省 策定

全学年でクラス替えを可能としたり、  
学習活動の特質に応じて学級を越えた集団を編成し、  
同学年に複数教員を配置するためには、  
**1学年2学級以上**が望ましい。

集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、  
切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばし  
ていくという学校の特質を踏まえ、  
小・中学校では**一定の集団規模が確保されていることが望  
ましいもの**と考えられています。

9

## 市内学校の学級数の状況（義務教育学校除く）

	小学校	中学校
19学級以上	9校	4校
12～18学級	6校	3校
9～11学級	鶴山台南小	—
8学級	—	—
7学級	池上小	—
6学級以下	横山小 南横山小・幸小	槇尾中・富秋中

10

## 小規模校のメリット

- ①一人一人の学習状況や学習内容の定着状況をより把握しやすい
- ②補充指導や個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい
- ③地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい

現学校において

- ・ 教職員にとって、深い子ども理解ができています  
→ 学習状況・生活指導を共通理解でき、職員全体で細やかな指導・見守りが可能
- ・ 保護者（地域）の学校教育への参加、活用が活発  
→ 保護者、地域の人材が学校教育に積極的に関わり、地域教材（産業・芸能・自然など）を活かした教育活動が充実  
→ 地域全体で、子どもを育てる教育環境

11

## 小規模校のデメリット

- ①クラス替えが全部、又は一部の学年でできない
- ②子ども同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③クラブ活動や部活動の種類が限定される

現学校において

- ・ 教員の技量が求められる（学級経営・校務分掌など）  
→ 学級がうまくいかなかった場合、クラス替えなどで転換を図れない  
→ 複数の校務分掌を担当することになる
- ・ 人間関係の固定化  
→ 社会性の醸成への影響
- ・ 授業において多様な意見にふれることができない  
→ 思考力や表現力、判断力、問題解決能力の育みへの影響
- ・ 校外学習の費用など一人当たりの負担が大きい

12

# 3. 和泉市の小中一貫教育の取り組み

13

## 和泉市の小中一貫教育

義務教育9年間を見通し、確かな学力を身につけた心豊かな子どもの育成をめざす

9年間の  
「めざす子ども像」  
を共有する

協力した  
推進組織体制  
で取組む

9年間の育ちと  
学びを見通し  
継続、連続した指導を行う

### 主な取り組み

- 学力向上
- 外国語活動・英語教育
- キャリア教育
- 道徳教育
- 支援教育
- 食育
- 児童・生徒指導の取組み

14

## 富秋中学校区の「めざす子ども像」

### ITSとみあき学園

自分のおもいを自分のことばで話せ、  
人のおもいを聞き取り、受け止めることができる子

#### 取り組み（平成29年度）

- ・ 校区学力向上推進リーダー  
（学力分析、小中共通の授業ルールづくり）
- ・ 校区共通カレンダーの作成
- ・ 小中学校で連続した英語教育指導
- ・ 小中学校、支援学校で情報共有、個別支援方策の検討

15

### 今後の意見交換の進め方

- ・ 当面は、市から情報提供も行いながら、学校の適正配置について意見交換。
- ・ 南松尾はつが野学園見学なども想定。
- ・ 市からの情報共有が一定できた頃に方向性を検討。部会及び検討会議で合意形成を図る。
- ・ 最終的には、「**適正就学対策審議会**」への諮問・答申を受け、議会で議決決定。

※適正就学対策審議会は、

市議会議員代表、学識経験者、地域関係者等で構成

※これらの時期は、今後の状況で決定するため、未定

16